

生活行為工夫情報事業に関する 登録者アンケート調査

結果報告

日本作業療法士協会生活環境支援推進室
生活行為工夫情報事業 東部ブロック 作業部会

ライフストーリーをつなぐ
さまざまな道具たち



小さな工夫が
生活の選択肢を増やす

生活行為工夫情報事業は **OTの魅力** であり**強み**



作業療法士の頭の中を
のぞくことのできる事例集



生活行為工夫情報事業の活用フロー

登録者視点

閲覧はできる

どんな相談すれば…

事例登録は難しそう

生活行為工夫情報事業に登録

事例集を閲覧

相談サマリーを閲覧

初回相談

事例登録

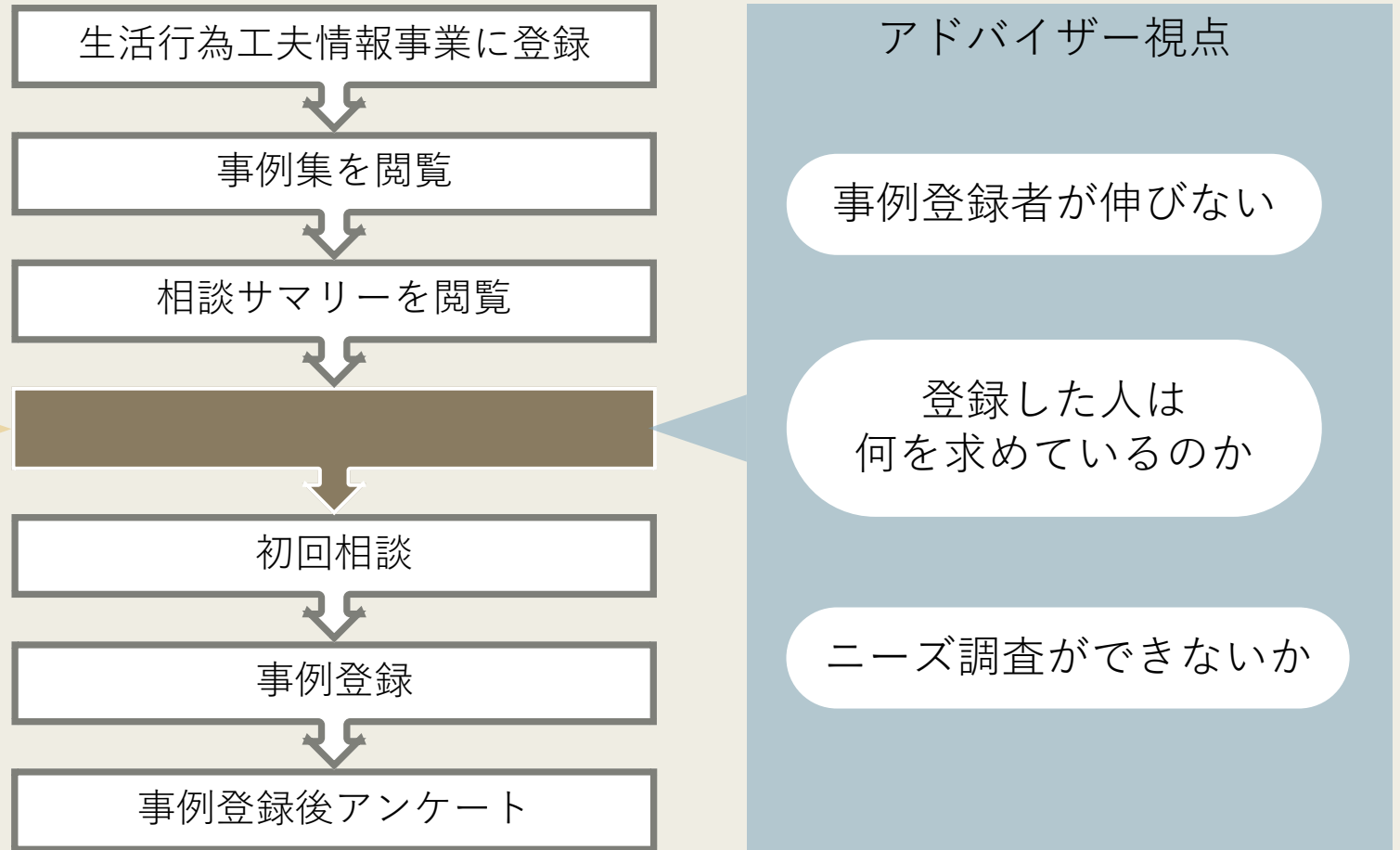
事例登録後アンケート

アドバイザー視点

事例登録者が伸びない

登録した人は
何を求めているのか

ニーズ調査ができないか



生活行為工夫情報事業の活用フロー

登録者視点

閲覧はできる

どんな相談すれば…

事例登録は難しそう

生活行為工夫情報事業に登録

事例集を閲覧

相談サマリーを閲覧

登録者アンケート調査

初回相談

事例登録

事例登録後アンケート

アドバイザー視点

事例登録者が伸びない

登録した人は
何を求めているのか

ニーズ調査ができないか



経緯と目的

【経緯】

生活行為工夫情報事業ではOTの工夫事例を「福祉用具相談支援システム(以下システム)で収集しているが事例投稿数の停滞がみられている。状況としてはシステムの登録者と事例投稿数の乖離みられており、システム登録者の実態を把握する必要性が2023年度第2回東部ブロック運営会議であがった。

2024年度第1回東部ブロック連絡会后、実施に向けた作業部会(提案者栃木県士会・ブロックリーダー東京都士会・サブリーダー福島県士会・神奈川県士会)を立ち上げ実態把握を目的とするアンケートの準備を進め、2024年度第2回東部ブロック連絡会でアンケートの下案を展開、同年3月15日の2024年度生活行為工夫情報事業第3回全体運営会議で本取り組みの報告をした。

2025年度第1回東部ブロック連絡会で実施に向けて参画士会より協力・同意を得た。

【目的】

システム登録者の生活行為工夫の経験や課題などを調査し、生活行為工夫情報の事例投稿を推進する取組みの材料とする。

方法

- 対象：生活行為工夫情報事業に登録している作業療法士
- 方法：Googleフォームを用いたWEBアンケート調査
- 質問内容
 - I.回答者プロフィール
 - II.生活行為に関する困難経験
 - III.臨床場面における生活行為工夫情報の活用
 - IV.生活行為工夫情報に対する関心
 - V.生活行為工夫情報事業に関する課題

結果 回収率

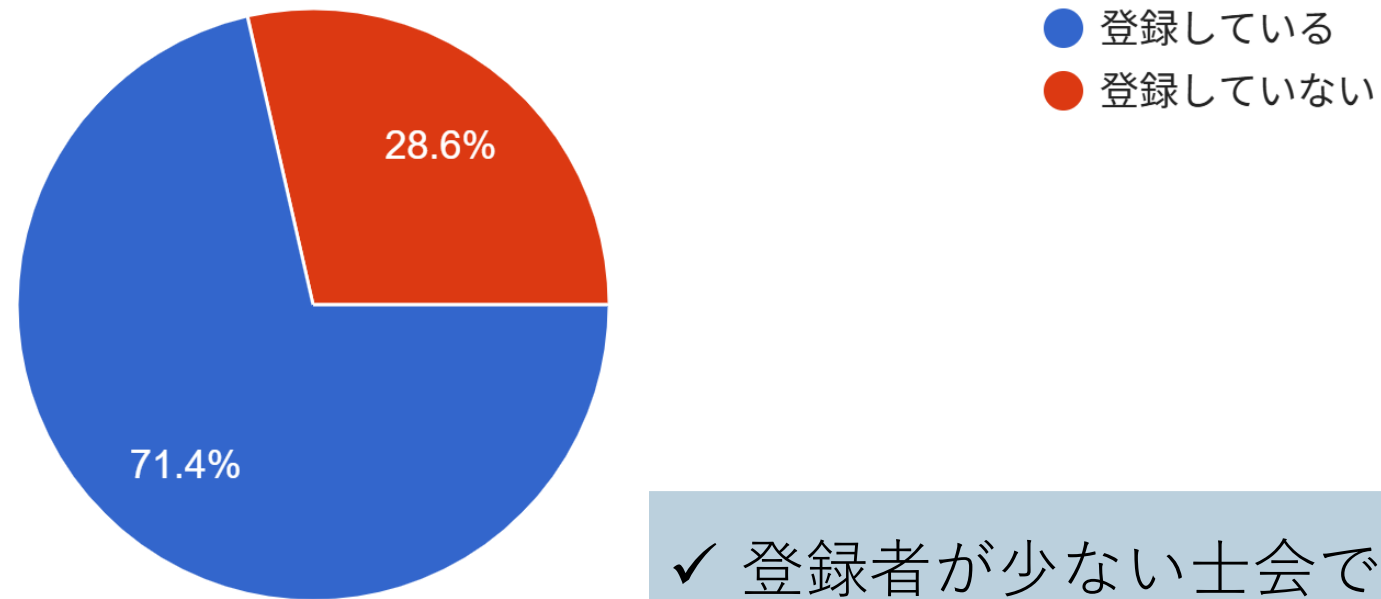
- 回答 84名（回収率 7.8%）
- 参加県士会 1都6県
生活行為工夫情報登録者 1,072名
 - 東京：309名
 - 神奈川：198名
 - 福島：311名
 - 栃木：24名
 - 群馬：77名
 - 新潟：63名
 - 宮城：90名

- ✓ 登録者全体の傾向を示すものではない
- ✓ 一部ユーザーの意見として扱う

生活行為工夫情報事業への登録の有無

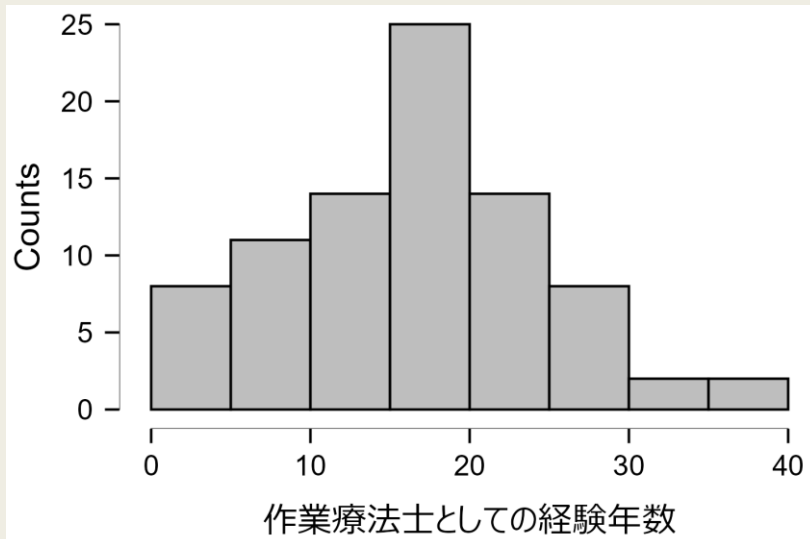
生活行為工夫情報事業に登録されていますか？

84 件の回答

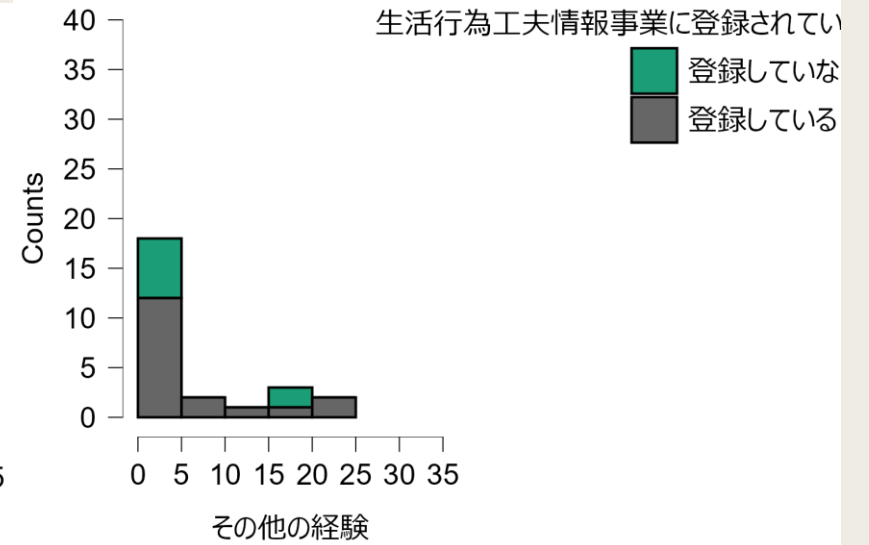
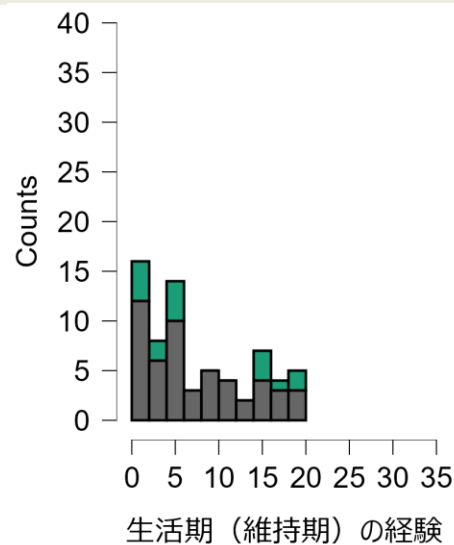
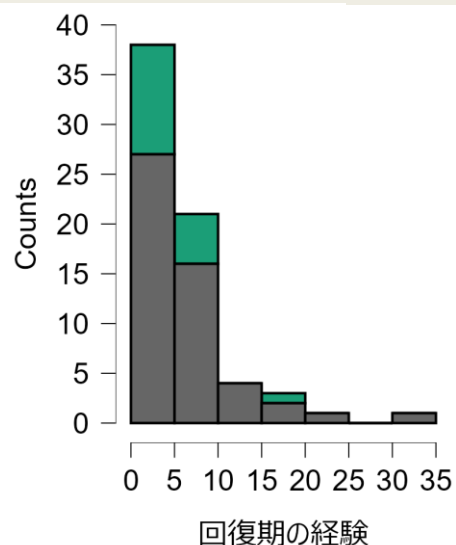
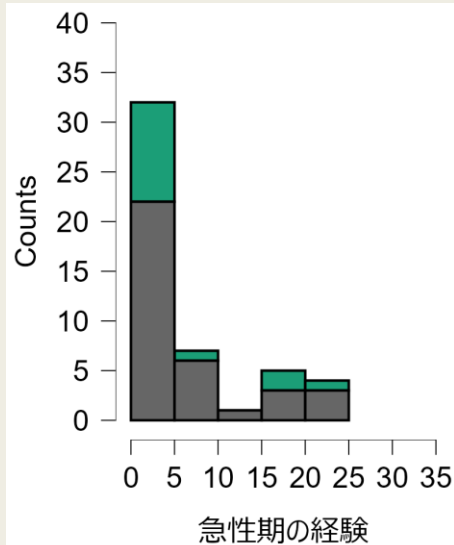


✓ 登録者が少ない士会では、
県士会HP等を使用して広報を行った

OT経験年数と各領域の経験



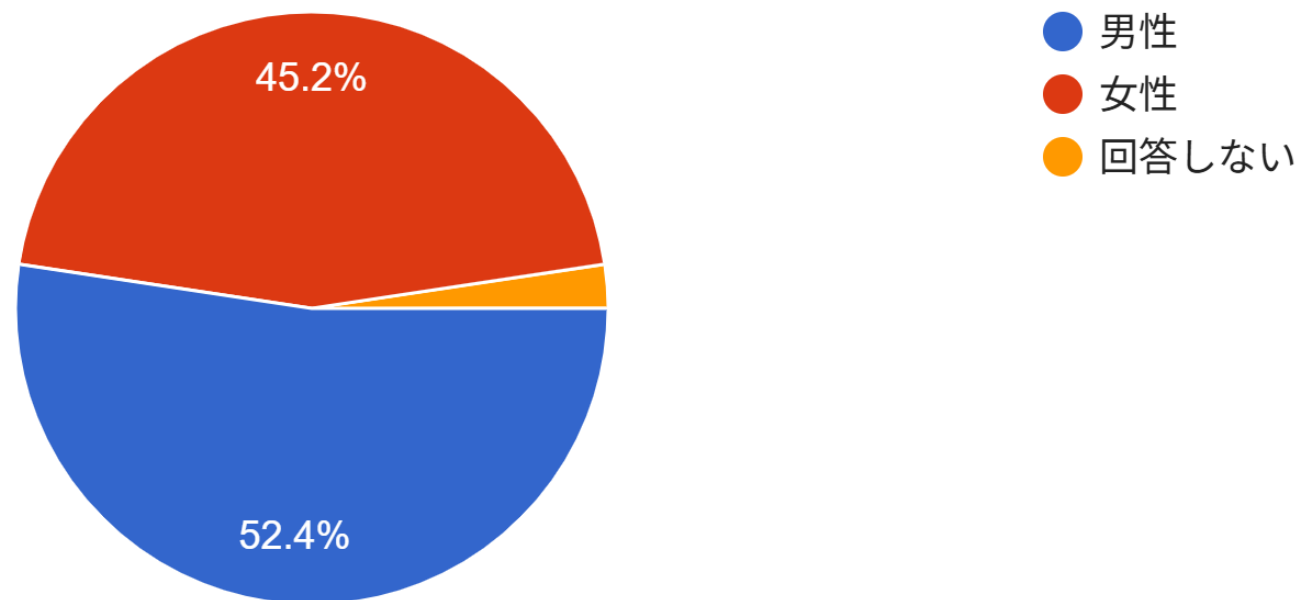
	回答数	欠損	平均	標準偏差	最小	最大
OT経験年数	84	0	16.9	8.2	2.0	39.0
急性期の経験	49	35	6.1	7.6	0.0	25.0
回復期の経験	68	16	6.4	5.9	0.0	33.0
生活期の経験	68	16	8.0	6.2	0.0	20.0



回答者の性別

性別

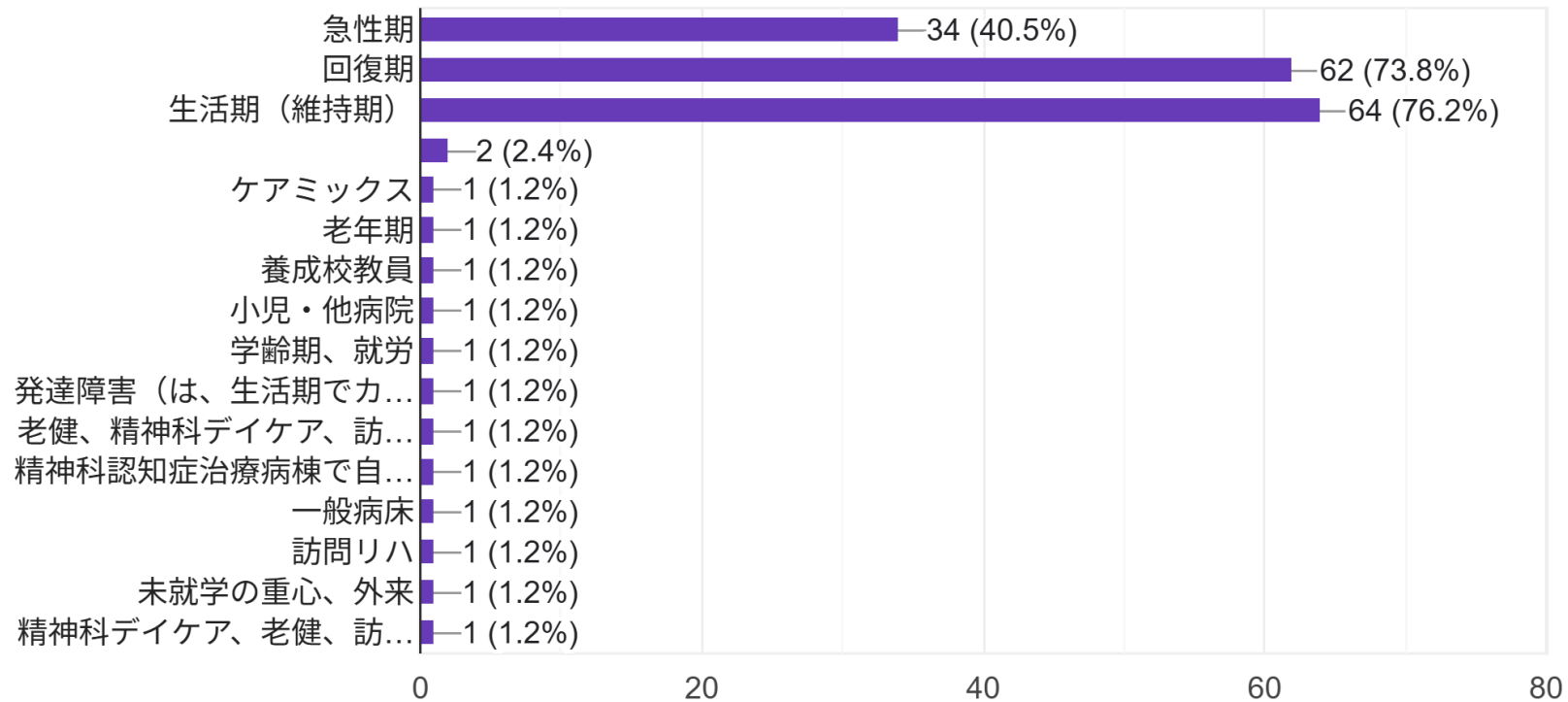
84 件の回答



経験した病期について

経験した病期について（複数回答可）

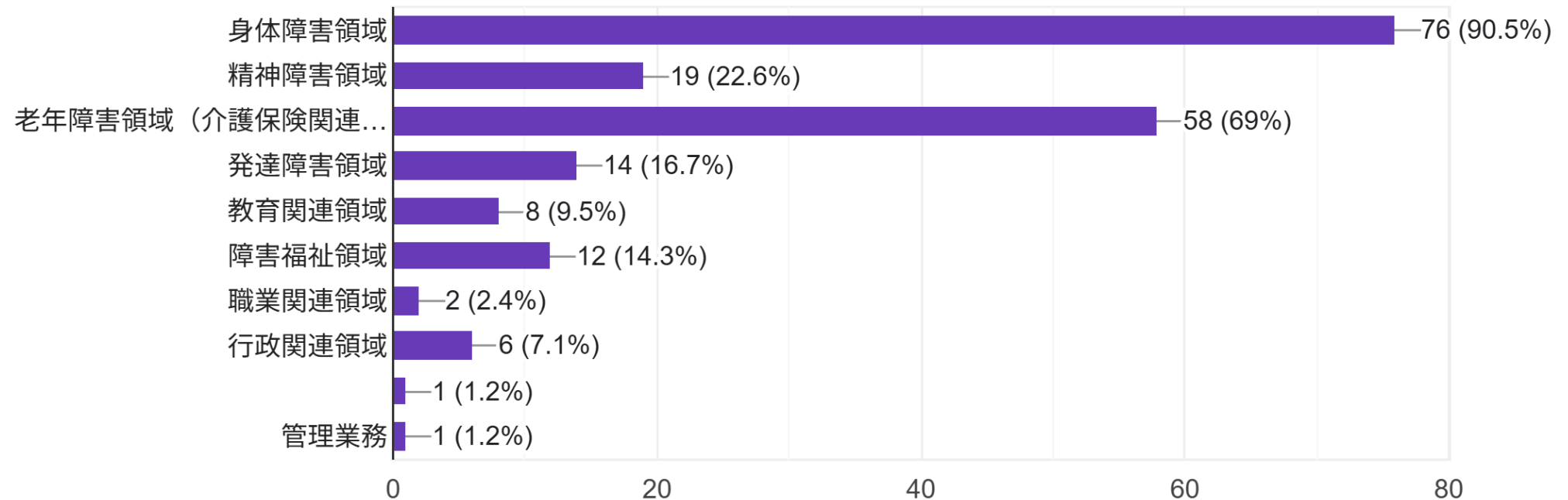
84 件の回答



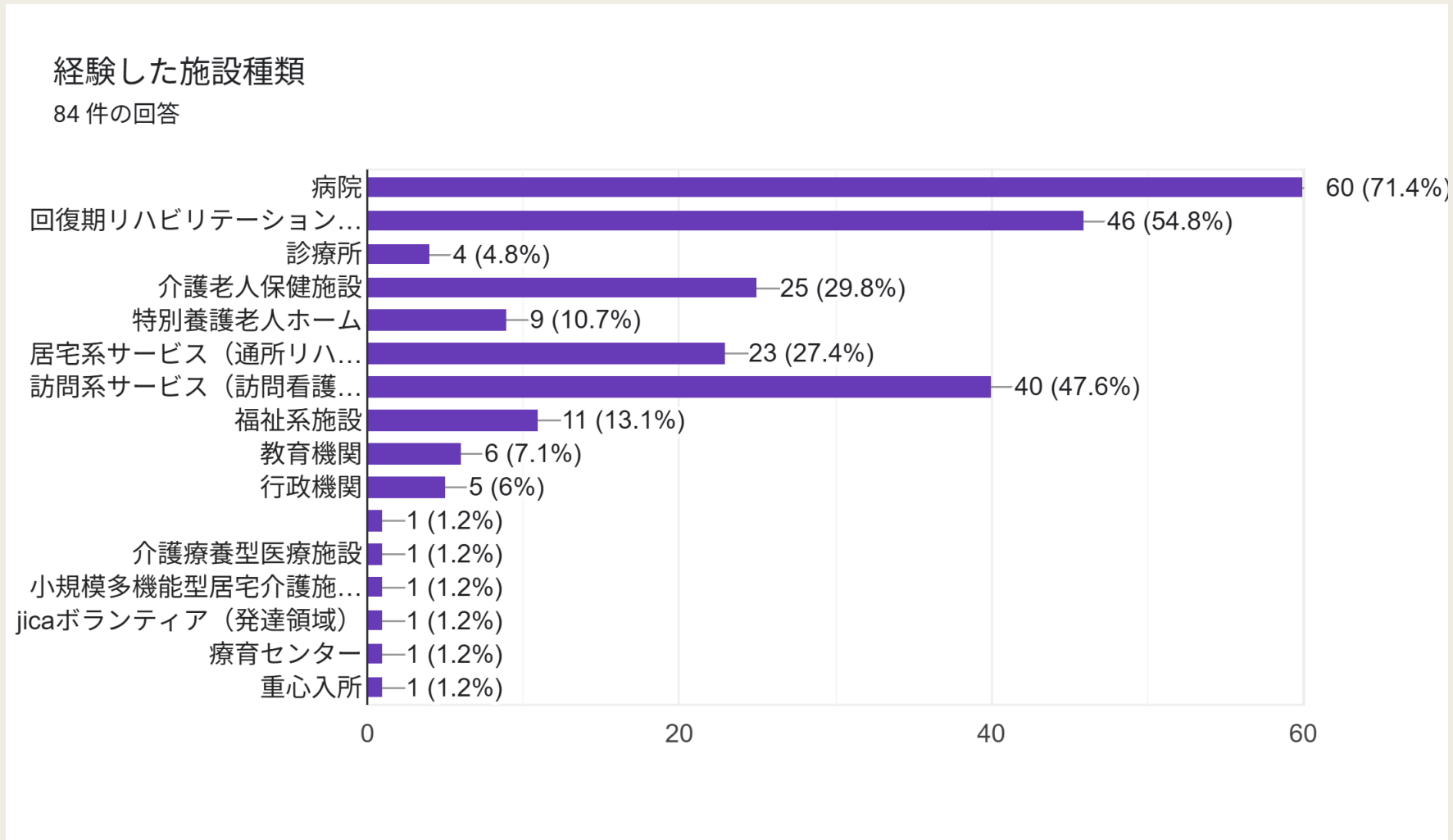
経験した領域について

経験した領域

84 件の回答



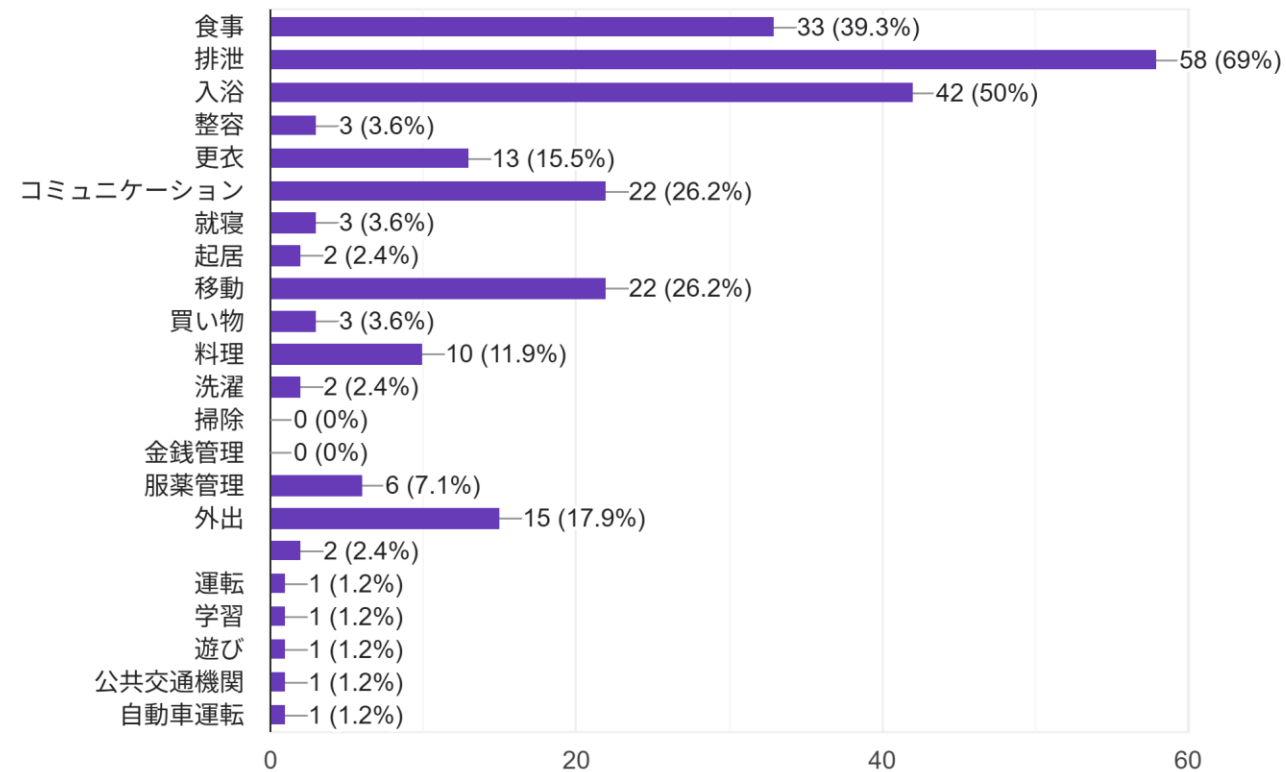
経験した施設種類



頻繁に困難を感じる生活行為

対象者を支援する上で、頻繁に困難を感じる生活行為について教えてください

84 件の回答



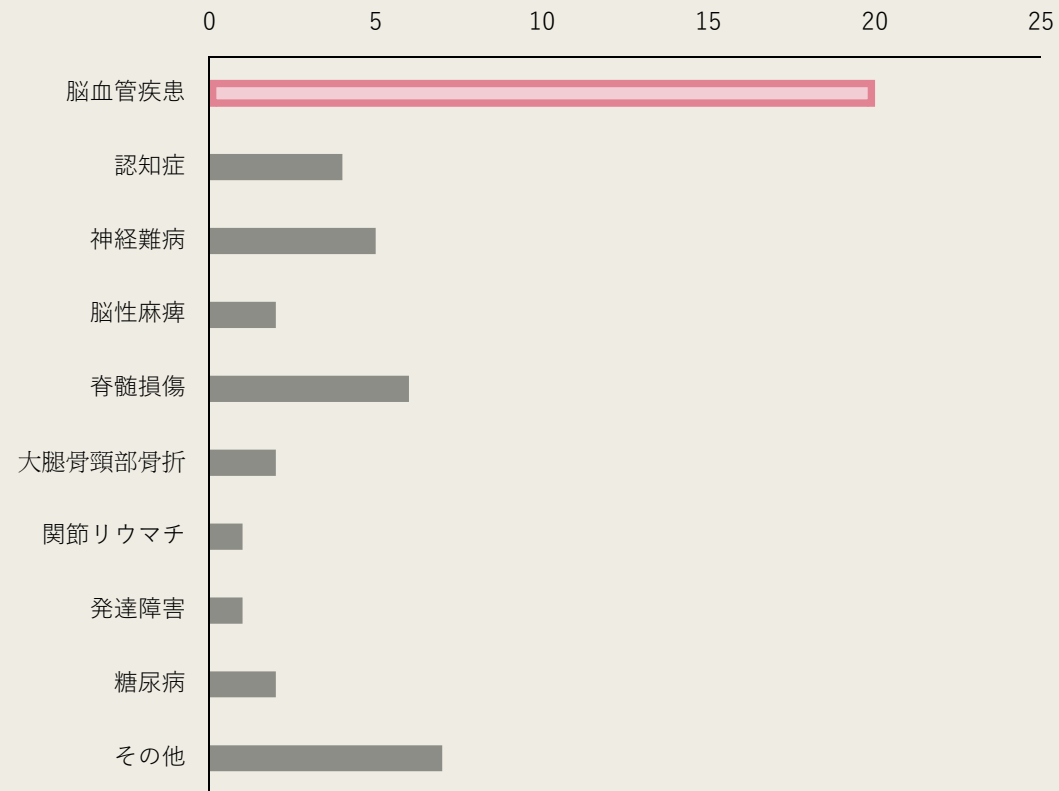
生活行為別困難感（5段階評価）

生活行為別 困難感 = どの生活行為に困難な経験をしているか（ニーズ）

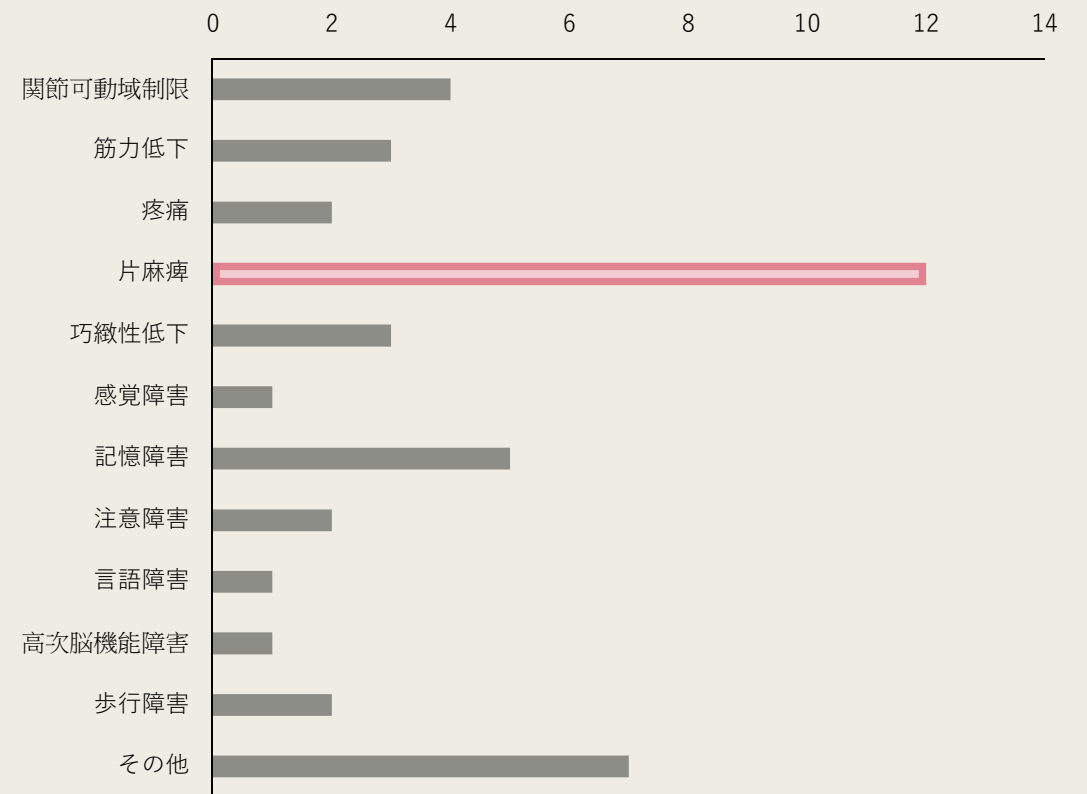
	回答数	欠損	中央値	平均値	標準偏差	最小	最大
食事	84	0	3.500	3.548	0.911	2.000	5.000
排泄	84	0	4.000	4.167	0.819	1.000	5.000
入浴	84	0	4.000	4.048	0.835	1.000	5.000
整容	84	0	3.000	2.845	0.752	1.000	4.000
更衣	84	0	3.000	3.369	0.954	1.000	5.000
コミュニケーション（コール含む）	84	0	4.000	3.774	1.045	1.000	5.000
就寝	84	0	3.000	2.786	1.031	1.000	5.000
起居	84	0	3.000	3.131	1.027	1.000	5.000
移動	84	0	4.000	3.798	1.084	1.000	5.000
買い物	84	0	3.000	3.440	0.998	1.000	5.000
料理	84	0	4.000	3.488	1.012	1.000	5.000
洗濯	84	0	3.000	3.107	0.919	1.000	5.000
掃除	84	0	3.000	3.048	0.917	1.000	5.000
金銭管理	84	0	3.000	3.060	0.949	1.000	5.000
服薬管理	84	0	3.000	3.488	0.963	1.000	5.000
外出	84	0	4.000	3.845	1.000	1.000	5.000

困難事例の疾患及び障害名

困難事例の疾患名



困難事例の障害名



困難事例の概要①

疾患名	障害名	生活行為	生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴	支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
ALS	筋力低下	コミュニケーション	進行性疾患の影響によりコミュニケーションツール設定、評価、再設定を、繰り返す必要があった。	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 開発品：OTがアイデアを提供し製品化されたもの	一時的に機器の使用はできるが、再評価、設定を必要とする。	あいていたいむ活用によりデモ機でIT機器を使用しているが、プラスで使いたい機器が囲やデモ機の貸し出しをしていないことがある。 また、訪問リハで利用する際に、週1回から2回の訪問の中でも評価している。大体2週間程のレンタルのところが多いため、評価に使える回数は限られており、充分活用出来ないことが多い。
ADHD	注意障害	移動	衝動性	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	窓からの急な飛び出しはなし	ドアからの急な飛び出しは鍵を付け替える費用、時間がかかり早急には解決できず
認知症	短期記憶低下	排泄	尿意便意の低下	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	軽度認知症の方で行動変容に結びつかなかった。	失禁した方が楽という意識
脳血管障害	座位バランスの低下	排泄	座位バランスの低下	個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	補高便座を作り排泄が可能となった	特になし
糖尿病	関節可動域制限、認知機能低下、手指巧緻性低下、感覚障害、筋力低下	食事	筋力低下や感覚障害、認知機能	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	身体機能はカバーできても、認知機能低下による一口量の調整などは難しかった	病気の進行
エーラス・ダンロス症候群	筋力低下、手指巧緻性の低下	洗濯	関節の不安定性、疼痛	個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	失敗	洗濯機から洗濯物を出す事が難しかった。量を少な目にしても洗濯物が重く、リーチャーを使用しても手への負担が大きく、疼痛が生じてしまった。

困難事例の概要②

疾患名	障害名	困難であった生活行為	生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴	支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
脳梗塞	片麻痺で Br.stage II - II - II	入浴	施設に一般浴しかなく、一般浴で浴槽浴する介助方法を検討した。麻痺側下肢の重度の弛緩性麻痺の影響で立位保持が困難、麻痺側上肢も重度の弛緩性麻痺であった。	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	非麻痺側の下肢の支持性と非麻痺側上肢の把持の支持性を活かし、シャワーチェアと浴槽内椅子とバスタオルで環境調整を実施。シャワーチェアと浴槽を隣接させて高さを均等にするためシャワーチェアにバスタオルを2枚敷いた。ひじ掛けを跳ね上げ、シャワーチェアから浴槽内へ、浴槽の縁を非麻痺側手指で把持していただきながら非麻痺側下肢はご自分でまたぎ、麻痺側下肢は介助でまたいだ。ここから浴室の横手すりを非麻痺側手指で把持していただき、湯の浮力と非麻痺側下肢の支持性を活かし浴槽内に座ることができた。立ち上がりを容易にするために浴槽内椅子を設置し、浴槽内からの立ち上がりも軽介助で可能になった。一連の介助方法を写真を用いてマニュアルとして作成し介護職員全員と共有した。結果として成功し、機械浴ではない一般浴の湯舟に入れたことをご本人も大変喜ばれていた。	とくになし。
パーキンソン	認知機能の低下、生活習慣	就寝	ジスキネジア	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの, 個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	ご本人に合った居室～リビング環境を整えた	特になし
脳梗塞	手の麻痺	洗濯	病気の受け入れ	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	病前と同じように出来ないことで受け入れられず	提案する時期
脳血管疾患後遺症	一側上肢下肢随意性低下、感覚障害	排泄	体格がよく体重がある	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	本人は普段からトイレを使いたいという希望だったが、応えられなかった。ケア職員の体制が良い時間帯に、身体的な負荷を許容する職員がいる時にトイレに誘導するという習慣だった。ケア職員が無理をして行うという習慣を変えられなかった。	道具の工夫をした。それ以上に施設環境の改善が必要だった。十分な期間と工夫ができなかった。施設の管理職の協力も必要だったが説得を得るに至らなかった。

困難事例の概要③

疾患名	障害名	困難であった生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴		支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
認知症、脊柱管狭窄症	記憶機能低下、見当識低下、筋力低下、両下肢麻痺	排泄	認知症	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	老々介護で在宅復帰を検討したが、排泄介助が行えずお試し帰宅で終了した。	介護サービスだけではどうしても排泄交換が賄いきれなかった。要介護同士で介助を行ってみたが、不十分であり、衛生を保てなかった。
多系統萎縮症	バランス障害	移動	立位バランス障害	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	車椅子を使わないでの移動方法を選択	車椅子を受け入れられなかった
脊柱管狭窄症	歩行距離の減少、歩行速度の低下	買い物	腰部脊柱管の狭小化	歩行補助具の検討、買い物代行の提案	別居家族が気にかけることで、重い物やストックが可能な物を買う必要がなくなった。	食品などは、商店で現物を見て買ってくるという習慣が定着していて、ネットスーパーの導入は困難であった。
脳梗塞かつ認知症	上肢の随意性低下	食事	認知機能低下、上肢の随意性低下	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	食具の使い分けが困難だったので、先割れスプーンを導入しましたが、結果それも使いにくかったようで手掴みで食べてしていました。	食具の使い方の定着が課題。原因は認知機能の低下。
脳血管疾患	記憶障害	外出	記憶の低下	家族からの支援	運転を希望されていたが、高次脳機能障害から運転は困難と判断して家族様の協力を得て外出する方法へ。	本人一人で運転は困難であった。身体機能は運転できる見込みはあるが、運転という toss の判断、人の命を奪うため慎重な判断を要する。
脊髄小脳変性症	言語障害	コミュニケーション	発声機能	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの、個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの、開発品：OTがアイデアを提供し製品化されたもの	様々な物を試したが、症状の進行が進んでおり、適応や理解が出来ているか、本人と確認できなかった。	知識不足により、進行状況に合わせた支援が行えなかった。
脳梗塞	記憶障害、注意機能障害	服薬管理	記憶、注意の低さ	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	内服間違えは減り、家族の管理負担は減った	内服セット時の見守りは継続して必要
腋窩神経麻痺	筋力低下	食事	四肢麻痺	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	複数回の調整のうちに回復し獲得	片手で使える単行本用の読書台

困難事例の概要④

疾患名	障害名	困難であった生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴		支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
脳性麻痺	手指巧緻性の低下	食事	振戦	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	期待した姿になりました	注意機能について
なし	なし	排泄	なし	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	本人の希望と支援者の状況を折り合わせると本人のニーズを全て叶えることはできなかった。安全面も考慮した生活の遂行はできた。	ニーズと安全面の折り合い
認知症	注意力の低下	食事	集中力の持続性困難	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの、個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	なし	なし
脳梗塞	片麻痺	排泄	？	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品、改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	成功	解決した
脳出血	高次脳機能障害	外出	半側空間無視、注意障害のため一人での外出困難	人的支援の指導	家族介助によって外出できるも人的資源に左右されるため、制限あり	人的資源に頼らないデバイス、システム、環境構築まで至らなかった
脳梗塞、統合失調症	パーキンソニズム	起居	パーキンソニズムに伴う固縮、寡動	福祉用具（介助バー+置き型手すり）	本人へ達成感に伴う有能感を醸成し、夫への介護指導を行って在宅復帰した	家屋調査などの場面で他職種が夫の力任せの介助を笑ってしまったりし、受け入れが不良となって、結果、元のセッティングに戻ってしまった 本人様に動作のし易さを実感して頂けなかった。
パーキンソン病	歩行障害	入浴	パーキンソン病症状全て	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	失敗	
頸髄損傷	巧緻性低下 筋力低下	食事	麻痺	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの、個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	一部介助から見守りにて摂取することができた。	持久性低下と疲労。
II型糖尿病 重度肥満	両膝変形性関節炎	排泄	両膝の重度疼痛 重度肥満体型 トイレの環境（便座の設置向き、空間の狭さ）	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	導入当初は成功。徐々に膝疼痛増ありオムツへ移行となった。	寝室からトイレまでの導線やトイレ内の空間の狭さ。

困難事例の概要⑤

疾患名	障害名	困難であった生活行為	生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴	支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
脳梗塞	麻痺側の随意性、筋出力の低下	服薬管理	弛緩性麻痺であること	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	健側にて内服薬の袋を開けるため、洗濯バサミで袋を挟んで立てる。健側でハサミに持ち替えて、袋を切り、中から薬を取り出す。	解決はできたが、ご本人の障害受容も客観的なところもあり、意欲的ではなかった。
脳性麻痺なし	なし	食事	四肢麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	提案した日は使ってくれても、その後生活の中で用具の使用が定着しなかった	用具の使用よる再現性がない
大腿骨頸部骨折	疼痛、筋力低下	排泄	疼痛	車椅子と手すり	片脚立位で移乗する必要がある、トイレでの排泄は現実的ではなかったが、ベッド上では排便できないと話していた患者さんの思いに寄り添う事はできた。	リフトがあれば安全に移乗ができた可能性があると考える。
脳梗塞	随意性低下	外出	随意性低下	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	解決できた	この時は解決できた
なし	なし	食事	なし	なし	なし	なし
脳梗塞	左麻痺、注意障害	服薬管理	左片麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品、個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	成功	特にない
脳梗塞	右片麻痺	移動	右片麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	短下肢装具作成の強い拒否があったが、自宅でのトイレ歩行の希望あり。 痙性も強かったため、なんとかご本人を説得して装具を作成。 家屋調査、外出練習、住宅改修を経て自宅退院。 トイレ歩行は、移動の導線に手すりやタッチアップを設置。装具を装着し、妻見守りの元でのトイレ歩行は獲得できました。	トイレ歩行自立には至らず。 残存機能、年齢、家屋環境的に自立は困難な状態であった。
大腿骨頸部骨折	関節可動域制限、筋力低下	起居	床へ着座することができない	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	独力で時間をかけ布団から起立、着座することとなった	寝室の広さ、荷物
脳梗塞	可動域低下、巧緻性低下	更衣	片麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	福祉用具使用し自立	なし
脳出血	片麻痺	料理	片麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	成功	なし

困難事例の概要⑥

疾患名	障害名	困難であった生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴		支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
頸髄損傷	手指巧緻性の低下、感覚障害、筋力低下、全盲	食事	手指巧緻性の低下、感覚障害、筋力低下、全盲	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの、個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	一品のみであれば摂取可能となった。	汁物やスプーンやフォークの持ち替え、多数の食品に関しては、やはり全盲と感覚障害の影響が大きかったと思われる
脳梗塞	左片麻痺	排泄	左片麻痺、注意障害	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	家族介助でポータブルトイレ使用可能に	なし
脳出血	左片麻痺、高次脳機能障害、感覚障害、空間認知の低下	料理	上肢機能低下、立位・歩行機能低下、注意機能低下	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	独居生活に戻り、提案した道具や支援制度は使わず自宅環境の範囲内でできることだけで生活するようになった。	料理に関しては、包丁や火を使った調理方法から電子レンジ、カット野菜などを使った調理スタイルへ変化することなども支援内容として必要で、支援者側もその経験と知識が必要。
脳出血	肩関節の疼痛	就寝	神経因性の疼痛、インピンジメント	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	疼痛を軽減することはできなかった	クッションを用いてポジショニングを行ったが、臥位姿勢が変わるたびに肩関節のアライメントが変化し、疼痛が発生するため寝付けなかった
関節リウマチ	関節可動域制限、手指巧緻性低下、筋力低下	排泄	手指・手関節・肘関節・肩関節の可動域制限ならびに筋力低下	個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	排泄時にウォシュレット使用することが可能となり、排便動作の再獲得に至った。	解決することは出来た。
脳梗塞	感覚障害	排泄	感覚障害や高次脳機能障害など	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	食事については改善が見られました。	本人や家族の必要性等の理解・認識
脊髄損傷	上下肢・体幹麻痺	排泄	麻痺	電動車椅子	成功	介入時間の制約 周囲の理解
筋ジストロフィー	体幹・上下肢の筋力低下、下肢の浮腫	排泄	体幹・上下肢の筋力低下	介護保険で貸与可能な商品	移動用リフトを用いてトイレでの排泄が行えた。	症状の進行が早く、使用できた時期が短期間であった。

困難事例の概要⑦

疾患名	障害名	困難であった生活行為	生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴	支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
頸髄損傷	手指巧緻性低下	食事	運動麻痺によりグリップやピンチ力の低下を認めた。	自助具	万能カフとユニバーサルスプーン、リハ皿を使用し食事が自立となった。	病棟看護師にセッティング方法の共有を行なったが、うまく自助具を対象者へセッティングすることができない場面があった。OTが他職種へ分かりやすく使用方法やセッティングを伝えていく必要があった。
なし	なし	食事	なし	なし	なし	なし
認知症	失行、認知機能の低下	食事	上肢機能低下	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	多少の自発的な動作へとつながったが明らかな改善には至らなかった	食事動作の認識やお膳の認識がすでに低下していたため残存機能を活かし道具での改善を試みたが根本的な認知機能へのアプローチではなかったため継続性がみられなかった
なし	なし	排泄	なし	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	なし	なし
後縦靱帯骨化症	四肢麻痺	食事	上肢・手指の麻痺・筋緊張亢進・可動域制限，頸部の筋緊張亢進・可動域制限	食事ロボット　　マイスプーン	業者から借りて試したものの頸部の可動域制限のため、口に入れるのが大変で本人から使わない、と拒否されてしまった	マイスプーンを使用するのに適した身体機能の情報不足と評価不足
脳梗塞などの脳神経疾患	認知機能	食事	認知機能、麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品，個別製品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	入院時点ではできていたが、退院後継続できていたかは不明	退院後の変化についての見立てと準備、その場合の介入ができない
脊損	起立性低血圧	外出	意識消失	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	リクライニング車椅子使用し、就労再開できた	長時間の就労はできなかった
脳梗塞	手指巧緻性の低下、姿勢障害	食事	両片麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	成功	より食べやすく出来たかもしれないこと

困難事例の概要⑧

疾患名	障害名	困難であった生活行為	生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴	支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
脳梗塞	重度右片麻痺 注意障害	入浴	右片麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 開発品：OTがアイデアを提供し製品化されたもの	洗体動作が全て自身で行えるようになった	自立したため特になし
脳梗塞	右片麻痺、失語症	移動	右片麻痺、失語症	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	杖歩行の利用者。家族の見守りのもと電動車椅子で外出できるようになった。	本人は自分だけでの外出を望んだが、失語症により万一の際の対応が困難であるため、家族の見守りに留まった。
脳梗塞	片麻痺、反対側の手指の機能低下	入浴	片麻痺、反対側の手指の機能低下	個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	自助具を作製し、非麻痺側でシャワーを持てるようになった。家以外でも使えるようになり、友人と温泉に行けるようになった。	なし
血管性認知症	記憶障害、前頭葉機能障害	外出	記憶障害と前頭葉機能障害により朝晩の生活行為の時間的習慣の維持が困難で、昼夜問わずに外出しようとしてしまうことや、外出してなかなか帰宅しないなどの課題があった。	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 開発品：OTがアイデアを提供し製品化されたもの	GPS機能を活用した見守りシステムを提案し、高齢（90代）のため日中の活動量や水一度使用してみたものの、GPSの持ち歩きがまちまちで、外出用セットのバックを持ったり持たなかったり。鍵にGPSを付けるとかさばるので外してしまう。靴の中に挿入できるタイプのもを紹介したが、結局GPSシステムの活用は見合わせる。夜間帯の不眠傾向と日中の不活発傾向による影響を考慮。タイマー式のコンセントを活用し、21:00～7:00を消灯時間に設定。その他の時間は明るい居室環境とした。消灯中の照明は人感センサーを用いたLEDライトを要所に設置。夜間不眠は継続したが、消灯環境を作ることが出来たので、外出企図の問題行動は減少したが、無くなることは無かった。	光線療法を参考にした居室空間の設定は一定の効果はあったように思うが、分摂取量、食事量などの複合的な影響を受けやすい印象。体調不良時（感冒出現時など）や脱水傾向（血圧ベースが下がった時）などに外出企図が出やすいが、日中や就前の水分補給を行うと夜間頻尿となりやすかったりと、外出企図以外の介護の手間が発生してしまう。日中の食事と水分摂取が安定することが必要であった。室温の影響も出やすい夏場は外出企図が増加。近隣地区のイベントや、家族親族のイベントも若干記憶しており、イベント近くになると焦燥出現しやすく、買い物などの理由により外出企図再燃しやすかった。

困難事例の概要⑨

疾患名	障害名	困難であった生活行為	生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴	支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
脳梗塞	左片麻痺	起居	左片麻痺に左大腿骨骨幹部骨折を合併し3ヶ月免荷の指示あり。また、脳室穿破しており非麻痺側も失調症状あり。加えて高次脳機能障害による脱抑制と感情失禁あり。術後3週間で自宅復帰が決まっていた。	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	リフトの導入をすべく、院内にあるリフトで移乗練習を実施し安全・安楽に移乗出来ることを本人と確認したが、妻の理解が得られず導入出来なかった。	リハ科からは慎重に提案するように準備していたが看護師から先に提案してしまい、リフトに対する物理的・心理的ハードルを先に妻に持たせてしまった。挽回ならず断念せざるを得なかった。
多系統萎縮症	発話困難	コミュニケーション	発声機能の低下	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの, 個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	関わらせて頂いたタイミングが進行が進んでいたもので、明確に評価できず、断念してしまった。	介入するタイミングが早ければ、進行前に意志疎通方法を検討できたと思われる。
なし	なし	外出	なし	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの, 個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	成功	なし
なし	なし	排泄	なし	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	なし	なし
認知症	関節可動域制限	整容	関節拘縮	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	失敗	対象者の理解が得られず、外してしまう
頸髄損傷	四肢麻痺	入浴	四肢麻痺	自宅のスペースに合わせてセミオーダーする移乗台等の設置	実際の使用感を確認できていないため不明	入院中に病院で可能な限り自宅に模した環境を作って動作確認は行うが、全く同じ環境は作れないため不安が残る
ALS	筋力低下	コミュニケーション	筋力低下	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	意思表示のためのコールスイッチを作製し使ってもらったが、使用できたのは短期間だけであった	病気の進行によって、自分の意思で動かせる部分が無くなった時の対応が課題である

困難事例の概要⑩

疾患名	障害名	困難であった生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴		支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
脳出血、脳梗塞	高次脳機能障害	料理	注意障害	個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	せいこうあ	模擬環境ばかり練習していたため、実際の環境で行った
認知症	記憶と意欲の低下	移動	筋力体力低下	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	できたりできなかったりで定着とは言えない	記憶の低下で定着に声かけ頻度が不足
脳梗塞	屋外歩行困難、巧緻性低下	外出	パーキン様症状、抑うつ傾向	セニアカー、太柄スプーン、太柄ペン	自宅近隣以外の外出につなげられなかった	本人の意思、家族マンパワー、抑うつ傾向
脳梗塞	片麻痺、感覚障害、注意障害、半側空間無視、失行	更衣	片麻痺、感覚障害	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	失敗	動作定着が不十分
進行性核上性麻痺	筋力低下、協調運動障害、パーキンソニズム	入浴	パーキンソニズム、協調運動障害による運動性の低下、転倒リスクの増大	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	用具を使用することで転倒リスクを軽減することができた	症状進行に伴う障害の重度化
筋ジストロフィー	巧緻性の低下	コミュニケーション	知的障害	個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	途中で入所した為介入終了	介入時間がたりない
脳梗塞	高次脳機能障害	移動	注意障害	自動車運転は困難であるため、代替手段の提案と地域の情報提供	あまり興味を示さず、失敗であった	自動車運転が目的となっており、代替手段は希望されなかった
脳梗塞	片麻痺	服薬管理	片麻痺	個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	成功	なし
脳梗塞	短期記憶の低下	入浴	高次脳	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	成功	足の爪切り。リーチ出来ず
多系統萎縮症	筋力低下、バランス能力低下、嚥下機能低下、関節可動域制限	コミュニケーション	全身的な筋力低下、バランス能力低下、姿勢維持が困難	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	一時的には使用できたが、進行するにつれて上手く活用ができなくなった	進行度に合わせて、その都度修正が必要だがタイムリーに対応ができなかったことや進行により用具自体の使用が困難になった。

困難事例の概要⑪

疾患名	障害名	困難であった生活行為		生活行為の困難さに影響していた心身機能・身体構造の特徴	支援に用いた用具の種類	結果	解決できなかった課題とその原因について
脳血管	手指巧緻性の低下	食事		麻痺	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品, 個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	部分的には成功	応用性がなく福祉用具が複数必要だった
頸髄損傷	四肢麻痺	食事		四肢麻痺	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの, 個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	ポータブルスプリングバランサーを使用し自力摂取可能	移乗動作全介助 麻痺が重度であったこと。
神経難病	手指の拘縮	整容		両手の拘縮	開発品：OTがアイデアを提供し製品化されたもの	一部成功	素材が硬すぎた
慢性腎不全 糖尿病性網膜症による失明 下腿切断	感覚障害 失明 切断	失 移動		切断 感覚障害 失明	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの, 個別製作品：障害特性に合わせて個別に製作したもの	院内移動は獲得したが、透析通院までは不可	不整地走行や環境適応が難しい
なし	なし	排泄		心身機能よりも背景因子	市販品：身近な店（通販を含む）で購入できる一般製品	なし	なし
認知症	情動障害	コミュニケーション		情動障害	なし	なし	無し
ギランバレー症候群	手指巧緻性の低下、筋力低下	排泄		手指の巧緻性の低下、筋力低下により下衣操作が困難	改良品：障害者等がより便利に使用できるよう一般製品を改良したもの	現在の巧緻性のままで下衣操作ができるようになった。（現在も試行中）	家族への説明不足

困難事例の分析（量的①）

疾患別の分布

疾患カテゴリ	件数	割合
脳血管疾患 （脳梗塞・脳出血）	25件	42%
神経難病 （ALS・パーキンソン・多 系統萎縮症等）	10件	17%
認知症	6件	10%
脊髄損傷・頸髄損傷	6件	10%
その他 （整形疾患・発達障害等）	13件	21%

困難な生活行為の分布

生活行為	件数
排泄	15件
食事	12件
コミュニケーション	6件
入浴	6件
移動・外出	10件
起居・更衣	5件
服薬管理	4件
その他 （料理・就寝等）	5件

困難事例の分析（量的②）

使用した用具の種類

用具種類	件数
市販品	38件
改良品	28件
個別製作品	18件
開発品	5件

結果の分類

結果	件数	割合
成功・解決	約20件	約33%
部分的成功・一時的成功	約18件	約30%
失敗・未解決	約15件	約25%
不明・継続中	約7件	約12%

困難事例の分析（質的）

【要因1】疾患の進行（12件）

- ・「症状の進行が早く、使用できた時期が短期間であった」
- ・「進行度に合わせてタイムリーに対応ができなかった」
- ・「介入するタイミングが早ければ、進行前に意思疎通方法を検討できた」

【要因2】本人の心理的要因（10件）

- ・「病気の受け入れ」「障害受容」
- ・「車椅子を受け入れられなかった」
- ・「本人の希望と支援者の状況の折り合い」
- ・「用具の使用が定着しなかった」

【要因3】認知機能による定着困難（8件）

- ・「認知機能低下による一口量の調整は難しかった」
- ・「記憶の低下で定着に声かけ頻度が不足」
- ・「食具の使い方の定着が課題」

【要因4】環境・制度的制約（8件）

- ・「施設環境の改善が必要だった」
- ・「寝室の広さ、荷物」
- ・「デモ機の貸出期間が限られている」
- ・「介入時間の制約」

【要因5】家族・他職種との連携（7件）

- ・「妻の理解が得られずリフト導入できなかった」
- ・「看護師から先に提案してしまい、心理的ハードルを持たせてしまった」
- ・「他職種が夫の介助を笑ってしまい、受け入れが不良となった」
- ・「家族への説明不足」

【要因6】支援者側の知識・スキル（5件）

- ・「知識不足により進行状況に合わせた支援が行えなかった」
- ・「マイスプーンを使用するのに適した身体機能の情報不足と評価不足」
- ・「退院後の変化についての見立てと準備ができない」

1. 「排泄」は最も困難で、最も工夫が求められる生活行為である

排泄が困難事例の25%を占め、スライド15の困難感スコアでも最高値（4.167）でした。排泄は本人の尊厳に直結し、介護負担にも大きく影響するため、OTの工夫が最も必要とされている領域です。成功事例（補高便座の個別製作、ポータブルトイレ導入等）と失敗事例の両方から学べる知見の蓄積が重要です。

2. 「用具の工夫」だけでは解決できない壁がある

約3分の2の事例が「部分的成功」または「失敗」に終わっています。その要因を見ると、「本人の受容」「家族の理解」「他職種連携」「介入タイミング」など、用具や環境の工夫以外の要素が解決を阻んでいます。特に注目すべきは「他職種との連携失敗」の事例です。「看護師から先に提案してしまい挽回できなかった」「他職種が家族の介助方法を笑ってしまった」これらは、OTの専門的判断を活かすためのチームアプローチの重要性を示しています。

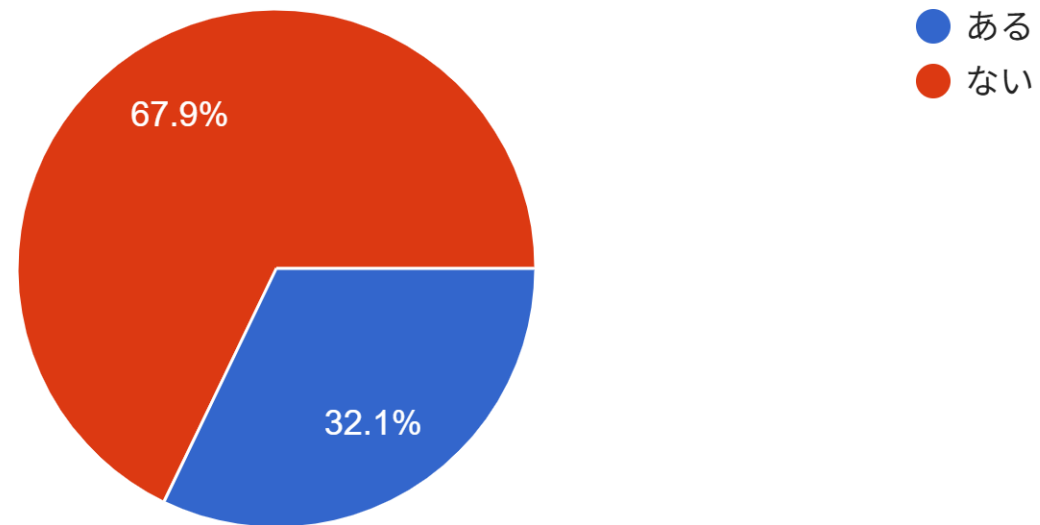
3. 進行性疾患への支援は「タイミング」が鍵

神経難病（ALS、パーキンソン、多系統萎縮症等）の事例では、「介入が遅かった」「進行に追いつけなかった」という後悔が繰り返し語られています。「介入するタイミングが早ければ、進行前に意思疎通方法を検討できたと思われる」進行性疾患では、現在の機能だけでなく将来の機能低下を見据えた早期介入と、段階的な支援計画の重要性が示唆されています。

臨床場面での活用

臨床場面にて生活行為工夫情報を活用したことはありますか？

84 件の回答



臨床場面での活用事例

生活行為工夫情報を活用した事例について教えてください

- 脊髄小脳変性症の肩にリストバンドを使い、腕を通すだけで使える重錘を作成。
 - 野鳥観察が趣味のパーキンソンの男性、振戦が強く靴が履けず、引きこもりだったが、靴紐及びに履き方ね工夫で、野鳥観察を再開して、活動性が高まった。
 - 家事全般
 - 車椅子使用時の上肢の位置付け(既製品に工夫を加え、筋緊張を緩和する)などを参考に、余暇参加時の姿勢保持を工夫した。
 - 事例と似たような身体機能の方へのアプローチに苦戦しており、ニーズの引き出し方を参考にした
 - ドアの楽な開閉について
 - 下衣更衣用自助具を参考にしようとしたが、うまくいかなかった。
 - せん妄症状が観察された患者に「現状確認シート」をベッドサイドへ掲示した
 - 両前腕切断
 - 関節リウマチ
 - 卓上時計を利用することで内服自己管理を行えるようになった。
 - 薬の袋を切るために重りか何かを利用して固定した方法
 - 自分が作成する時のアイデアの素地として活用した。
 - 閲覧のみ
 - 難聴だが補聴器を活用していなかった方に、助聴器を用いたコミュニケーションにより意思疎通が図れた。また家族とも意思疎通がスムーズとなり、親子喧嘩が少なくなった。
 - 片麻痺患者の服薬時に洗濯バサミで薬袋が自立するようにした。
 - ファスナーが開けやすくなる物を使い、服が自立して着れるようになった。
 - 在宅酸素機器のチューブの取りまわし方についての事例を参考にした
 - BFO型上肢装具の使用により在宅勤務を継続することができた
 - 服薬のカット
 - 食事
 - リウマチ
-

臨床場面での活用事例

活用された生活行為の分類

生活行為カテゴリ	件数
更衣・整容（靴、服、ファスナー等）	4件
服薬管理	3件
コミュニケーション	2件
移動・姿勢保持	2件
食事	2件
家事全般	1件
その他・不明	8件

活用の「深さ」による分類

活用レベル	件数	内容
レベル1：閲覧のみ	1件	情報を見ただけ
レベル2：参考・着想	5件	アイデアの素地、ニーズの引き出し方を参考
レベル3：直接適用	8件	事例をそのまま、または少し変えて適用
レベル4：応用・発展	4件	事例を基に自分なりの工夫を加えて実践
分類困難	4件	キーワードのみで詳細不明

臨床場面での活用事例

【パターン1】用具・自助具の直接参照型

- ・ 「脊髄小脳変性症の方にリストバンドを使い、腕を通すだけで使える重錘を作成」
- ・ 「片麻痺患者の服薬時に洗濯バサミで薬袋が自立するようにした」
- ・ 「ファスナーが開けやすくなる物を使い、服が自立して着れるようになった」
- ・ 「薬の袋を切るために重りか何かを利用して固定した方法」

特徴：具体的な用具や道具の使い方をそのまま、または少しアレンジして適用。最も多いパターン。

【パターン2】生活場面・環境調整の参照型

- ・ 「在宅酸素機器のチューブの取りまわし方についての事例を参考にした」
- ・ 「車椅子使用時の上肢の位置付けを参考に、余暇参加時の姿勢保持を工夫した」
- ・ 「せん妄症状が観察された患者に『現状確認シート』をベッドサイドへ掲示した」

特徴：用具単体ではなく、生活場面全体や環境設定の工夫を参照。

臨床場面での活用事例

【パターン3】アプローチ・プロセスの参照型

- 「事例と似たような身体機能の方へのアプローチに苦戦しており、ニーズの引き出し方を参考にした」
- 「自分が作成する時のアイデアの素地として活用した」

特徴：用具そのものではなく、**対象者への関わり方や思考プロセス**を学んでいる。
これは生活行為工夫情報事業の「OTの頭の中をのぞく」という本来の価値に合致。

【パターン4】QOL・社会参加への貢献型

- 「野鳥観察が趣味のパーキンソンの男性、振戦が強く靴が履けず引きこもりだったが、靴紐及び履き方の工夫で、野鳥観察を再開して活動性が高まった」
- 「難聴だが補聴器を活用していなかった方に、助聴器を用いたコミュニケーションにより意思疎通が図れた。また家族とも意思疎通がスムーズとなり、親子喧嘩が少なくなった」
- 「BFO型上肢装具の使用により在宅勤務を継続することができた」

特徴：ADL改善にとどまらず、**趣味・余暇活動の再開、家族関係の改善、就労継続**など、
QOLや社会参加レベルの成果につながっている。

自身で考案した工夫例

自身で考案した工夫例について教えてください

- リーチヤー
- 洗濯バサミを使わずに洗濯物を干せるよう、ハンガーを改良する。
- 市販品を活用したり、ミシンで作成したりしている
- 蓄尿バッグを使用している視覚障害のある方の移動自立のために、本人の腰にベルトを付け蓄尿バッグを位置付ける工夫。
- ナースコールの固定等
- 靴の着脱
- 磁石ボタン、ソックスエイド、布団掛け用具、太柄ペンなど
- ご本人が不安に思う点について確認出来るシートを作成した。日付は毎日付箋で書き換えることができるように工夫した
- ソックスエイド、ボタンエイドの使用
- 握力が低下した人の車椅子駆動のため、ハンドリムにパイプカバー（水道管の凍結予防などに使用する）をつけた
- 片麻痺の利用者が手芸を行うさいに、作品を固定するために、プラスチックケースを改良したり、別の用途の福祉用具を使用したりした。
- 股関節外転外旋可動域の狭い方に対し、100円均一で購入した滑り止めマットを活用し、足を組んで靴を履いたりする際に足が滑り落ちないように工夫した。
- クリップでボタンエイドを作製した
- 自宅内の荷物運びについて、駅弁の販売スタイルで台所と居間の往復を減らした。
- 食事用の自助具
- 食器具の柄を太く把持しやすい形状に成型した
- 洗体輪タオル
- スプーンの持ち手を太くした
- 介護用の靴が本人だけで履きやすいようにベロ部に針金をつけた
- 靴の着脱に困難感があり、可動域の制限により靴べらが合わなかった。なので、ファイルを加工し靴べらの代用にして着脱が容易になった。

自身で考案した工夫例

対象となった生活行為の分類

生活行為カテゴリ	件数	具体例
更衣・靴の着脱	7件	ソックスエイド、ボタンエイド、靴の工夫
食事	3件	スプーン柄の加工、食器具の成型
移動・姿勢保持	3件	車椅子ハンドリム、蓄尿バッグ固定
入浴・整容	2件	洗体輪タオル
家事（洗濯・運搬）	2件	ハンガー改良、荷物運び
コミュニケーション・安心	2件	ナースコール固定、確認シート
余暇活動	1件	手芸の作品固定

工夫の手法による分類

工夫の手法	件数	割合
既製品の転用・流用	6件	30%
既製品の改良・加工	6件	30%
一から製作	4件	20%
環境・方法の工夫	2件	10%
詳細不明	2件	10%

自身で考案した工夫例

【パターン1】異分野製品の転用型

- ・ 「握力が低下した人の車椅子駆動のため、ハンドリムにパイプカバーをつけた」
- ・ 「**クリップ**でボタンエイドを作製した」
- ・ 「**ファイル**を加工し靴べらの代用にして着脱が容易になった」

特徴：福祉用具以外の日用品・工業製品を、本来の用途とは異なる目的で活用。

「**これ、使えるかも**」という**発想の転換**がポイント。低コストで即座に試せる利点がある。

【パターン2】100円均一活用品

- ・ 「**100円均一**で購入した**滑り止めマット**を活用し、足を組んで靴を履いたりする際に足が滑り落ちないように工夫した」

特徴：100円ショップの商品を活用。安価で入手しやすく、**試行錯誤のハードルが低い**。失敗しても経済的損失が小さいため、複数の方法を試しやすい。

【パターン3】既存自助具の個別調整型

- ・ 「食器具の柄を太く把持しやすい形状に成型した」
- ・ 「スプーンの持ち手を太くした」
- ・ 「介護用の靴が本人だけで履きやすいように**ベロ部に針金をつけた**」
- ・ 「洗濯バサミを使わずに洗濯物を干せるよう、**ハンガーを改良**する」

特徴：既存の自助具や日用品を、対象者の個別ニーズに合わせて微調整・改良。

市販品では「あと少し」が足りない部分を補う工夫。

自身で考案した工夫例

【パターン4】生活動線・方法の再設計型

- 「自宅内の荷物運びについて、**駅弁の販売スタイル**で台所と居間の往復を減らした」
- 「蓄尿バッグを使用している視覚障害のある方の移動自立のために、本人の腰にベルトを付け蓄尿バッグを位置付ける工夫」

特徴：用具の改良ではなく、**動作の方法や生活動線そのものを再設計。**

「駅弁の販売スタイル」という比喩は、日常生活の観察から着想を得ている好例。

【パターン5】心理的安心を支える情報提示型

- 「ご本人が不安に思う点について確認出来るシートを作成した。
日付は毎日付箋で書き換えることができるように工夫した」

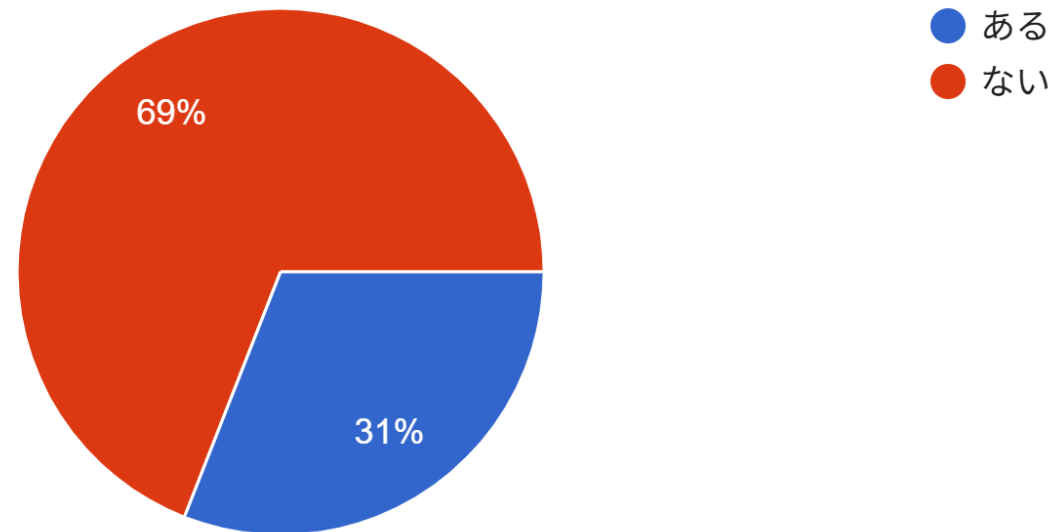
特徴：身体機能の補完ではなく、**認知・心理面への支援。**

せん妄や見当識障害への対応として、情報を視覚的に提示する工夫。

職場内での生活行為工夫情報の共有

職場内にて生活行為工夫情報を共有したことはありますか？

84 件の回答



職場内での生活行為工夫情報の共有

職場内で効果的であった生活行為工夫情報の共有方法について教えてください

- ☐ 質問の趣旨とズレるかもしれませんが、福祉用具の作成を他職種に質問されて教えることはあります。ボタンエイド、リーチャーなど、
- ☐ 情報を形にして、他職員に見てもらう。
- ☐ 掲示、カンファレンス時に周知、直接伝える
- ☐ 個々での相談
- ☐ 課内での福祉用具コンテスト
- ☐ 地域包括ケアのケアマネさんに口頭で紹介した。一緒に工夫情報のページを閲覧した。
- ☐ アナウンス
- ☐ 紹介はしたことがあるが、活用はされていない
- ☐ 情報が来た時に職場内へ声掛けする
- ☐ 勉強会を開催した
- ☐ 部門勉強会でホームページの開き方、事例確認等をして活用方法について確認を行った
- ☐ 資料の回覧
- ☐ OT内のミーティングで、相談掲示板について伝達した。
- ☐ 車いすからの落下が頻繁に見られて抑制帯を外すための検討会をした
- ☐ 冊子の回覧
- ☐ 紹介したが、各自が活用したかまでは把握できていない。アクセスが面倒だったか
- ☐ 集合での勉強会
- ☐ 職場内にOT協会会員がいないため、生活行為工夫情報の共有をして良いものか？悩む⇒行っていない
- ☐ 存在の周知を院内メールで
- ☐ 症例検討を行った
- ☐ ファスナーの更衣
- ☐ ジッパーの閉め方

職場内での生活行為工夫情報の共有

共有方法の分類

共有方法	件数	具体例
勉強会・研修	4件	部門勉強会、集合での勉強会
会議・カンファレンス	3件	ミーティング、症例検討、検討会
文書・資料の配布	3件	資料の回覧、冊子の回覧
掲示・メール	2件	掲示、院内メール
口頭・個別対応	4件	直接伝える、個々での相談、声掛け
実物の提示	1件	情報を形にして見てもらう
イベント型	1件	課内での福祉用具コンテスト
共有していない/課題あり	4件	活用されていない、悩んで行っていない

職場内での生活行為工夫情報の共有

【パターン1】フォーマル型（組織的・計画的）

- 「勉強会を開催した」
- 「部門勉強会でホームページの開き方、事例確認等をして活用方法について確認を行った」
- 「集合での勉強会」
- 「症例検討を行った」
- 「車いすからの落下が頻繁に見られて抑制帯を外すための検討会をした」

特徴：組織的に時間と場を設けて共有。**教育効果は高いが、準備の負担も大きい。**

特に「ホームページの開き方」まで指導している事例は、アクセスのハードルを下げる配慮がある。

【パターン2】インフォーマル型（日常的・即時的）

- 「個々での相談」
- 「情報が来た時に職場内へ声掛けする」
- 「直接伝える」
- 「福祉用具の作成を他職種に質問されて教えることがあります」

特徴：日常業務の中で自然発生的に共有。**準備不要で即座に実施できるが、共有範囲が限定的。**

「質問されて教える」という受動的な共有も含まれる。

職場内での生活行為工夫情報の共有

【パターン3】メディア活用型（非同期・広範囲）

- ・ 「掲示、カンファレンス時に周知」
- ・ 「資料の回覧」
- ・ 「冊子の回覧」
- ・ 「存在の周知を院内メールで」
- ・ 「OT内のミーティングで、相談掲示板について伝達した」

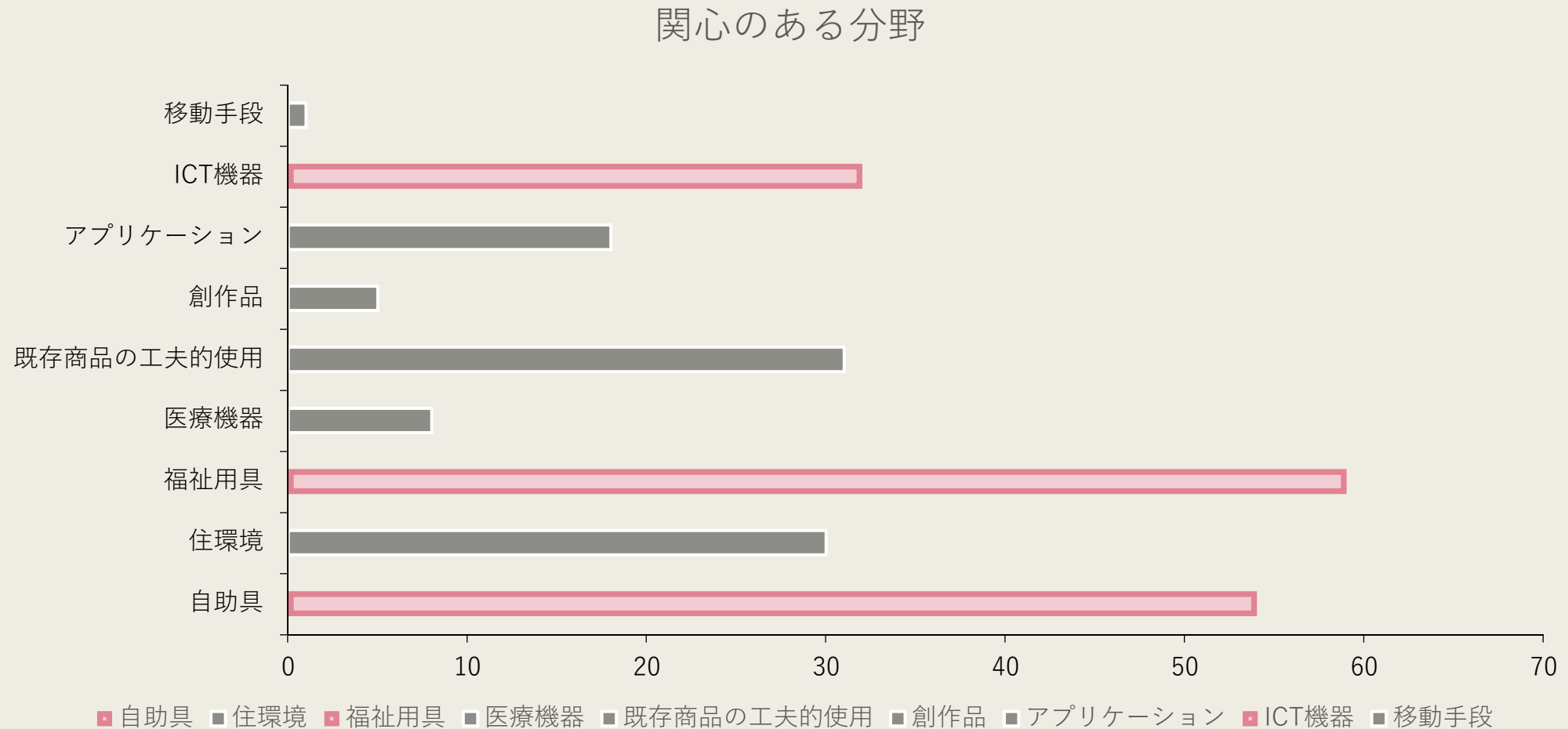
特徴：文書・メール・掲示など、**時間を共有しなくても情報を届けられる。**
広範囲に周知できるが、一方通行になりやすく、**実際に活用されたかの確認が困難。**

【パターン4】体験・参加型

- ・ 「情報を形にして、他職員に見てもらう」
- ・ 「課内での福祉用具コンテスト」
- ・ 「地域包括ケアのケアマネさんに口頭で紹介した。一緒に工夫情報のページを閲覧した」

特徴：実物を見せる、一緒に操作する、競争形式にするなど、**受け手の能動的参加を促す工夫**がある。
特に「福祉用具コンテスト」は、共有と同時にモチベーション向上も図れるユニークな取り組み。

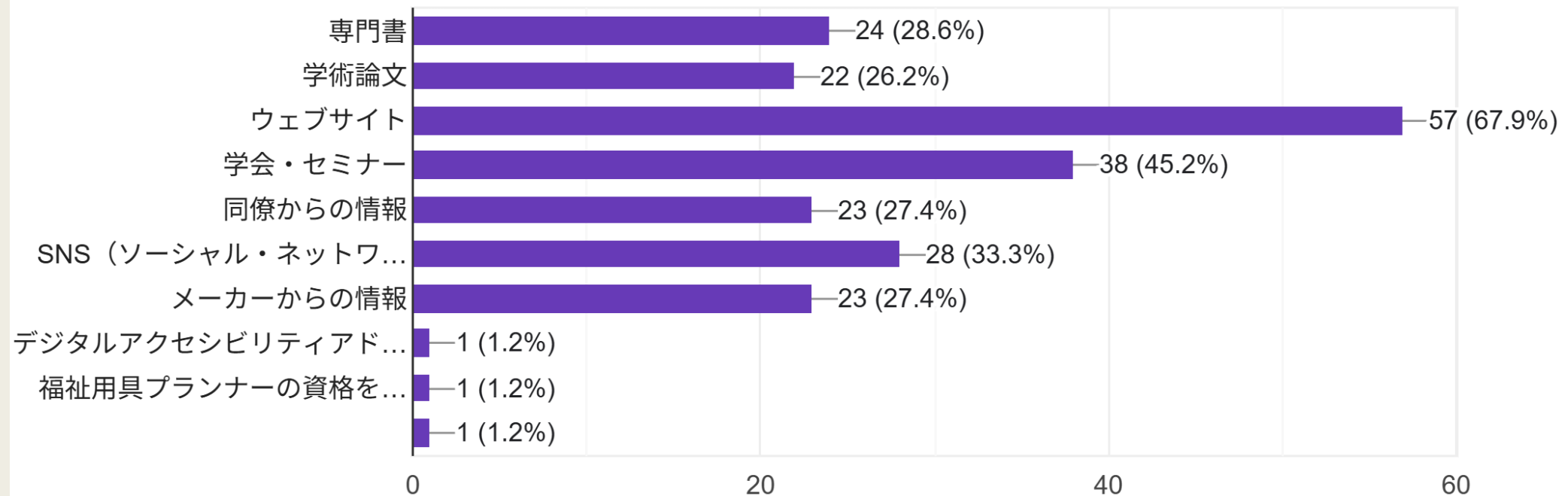
興味・関心のある分野



普段からの情報収集手段

普段からの情報収集手段について

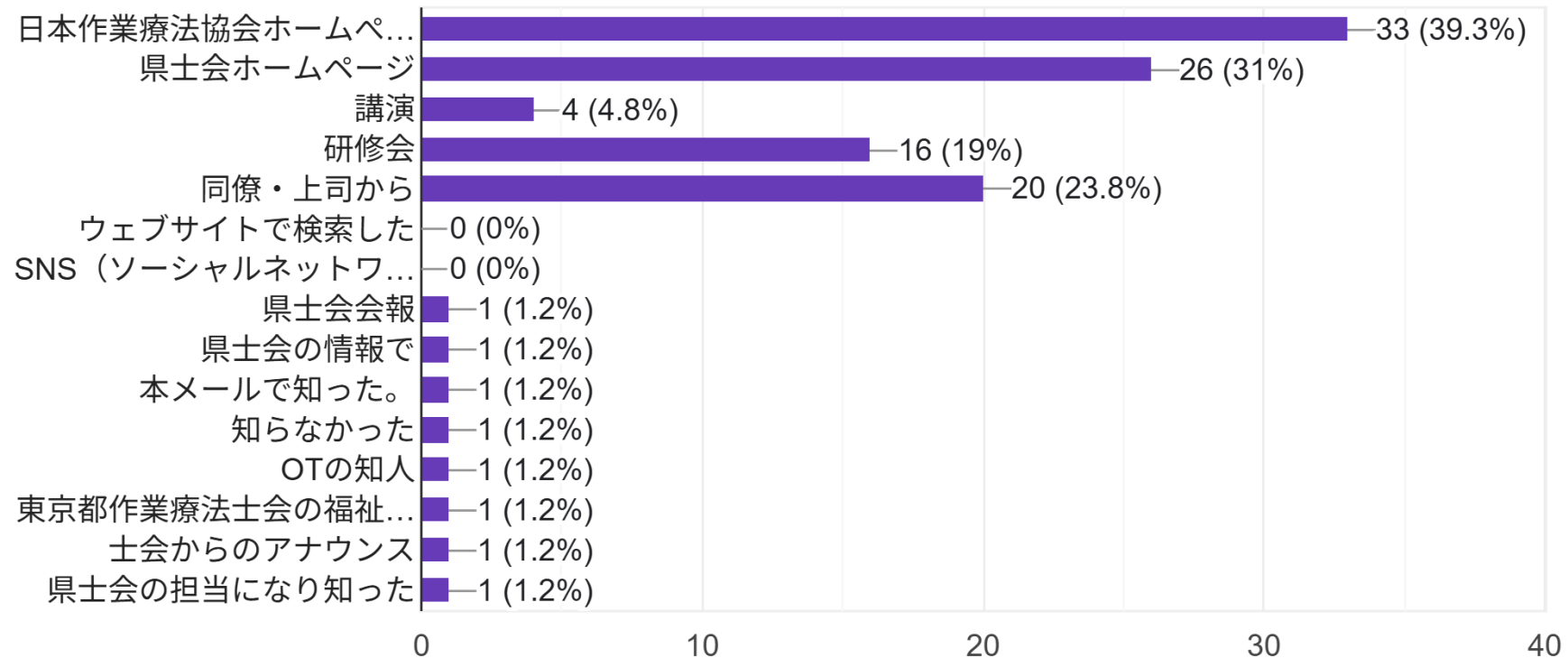
84 件の回答



生活行為工夫情報事業の認知経路

生活行為工夫情報事業をどこで知りましたか？

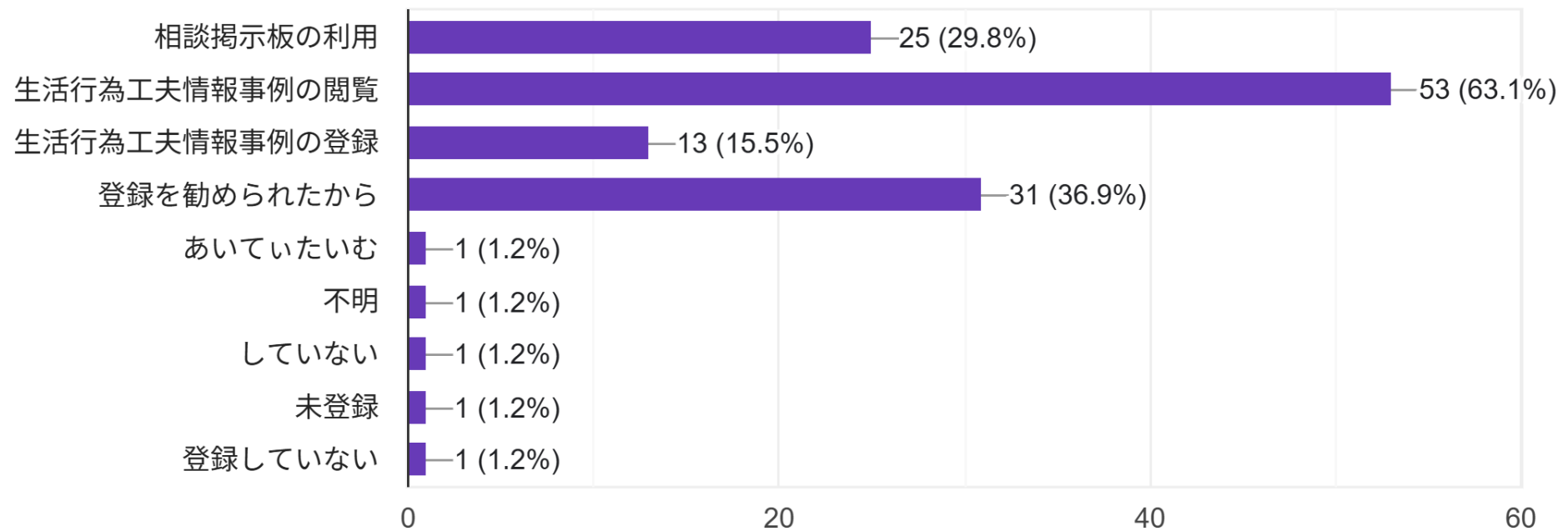
84 件の回答



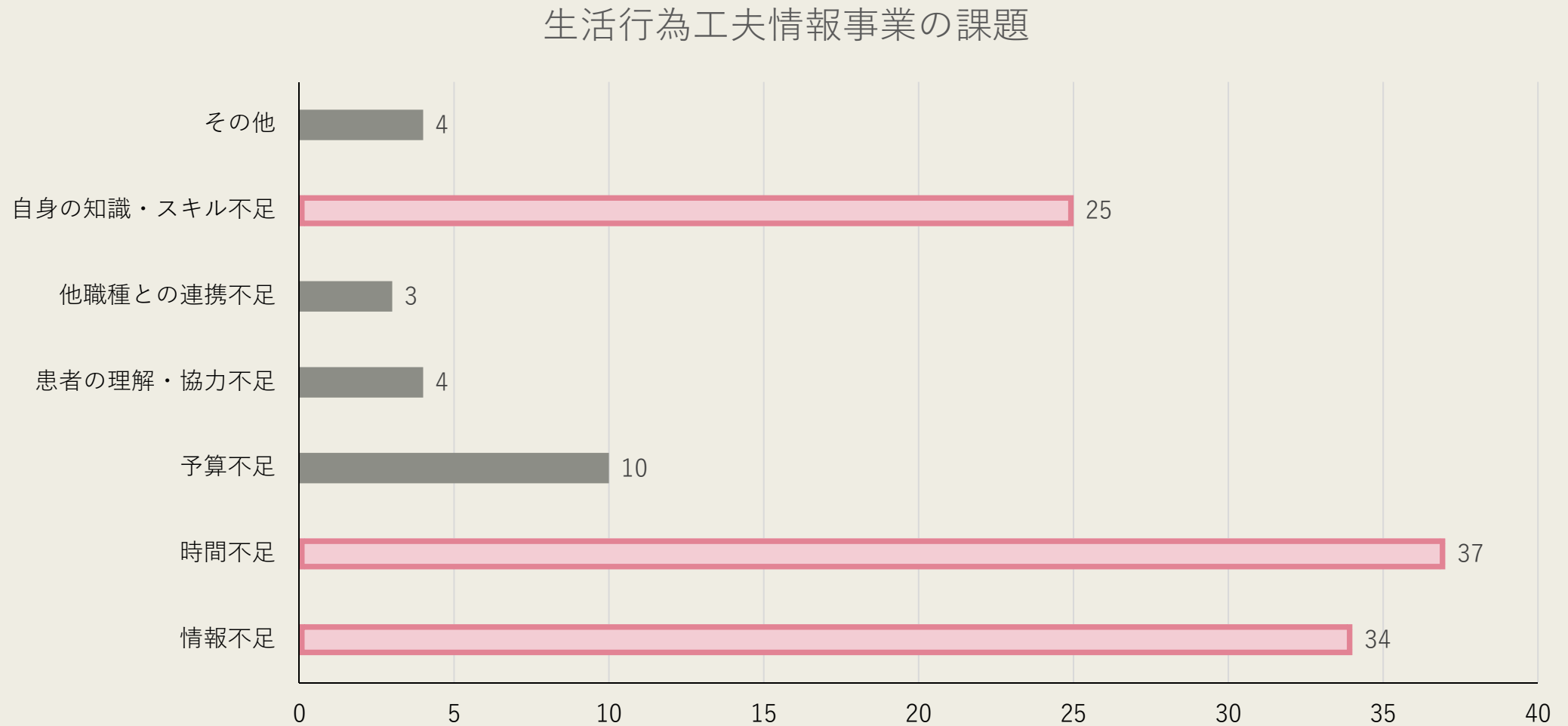
生活行為工夫情報事業の登録目的

生活行為工夫情報事業に登録した目的

84 件の回答



生活行為工夫情報事業の課題



今後必要な支援・情報

今後必要と思われる支援や情報

- ☐ AI活用
- ☐ 効果的な歩行器選定のコツ
- ☐ 定期的な配信
- ☐ 職場内で同職種が少ないので事例が多くあると参考にできると思います。困りごとなどが共有できる場所があってもうれしいです。
- ☐ どこにどんな情報があるのか、知る必要性がある。
- ☐ データベース
- ☐ AI,ICT関連
- ☐ 各県で登録された情報を共有することができ、OTだけでなく一般人や他職種もみることができ、SNSなどで登録事例のショート動画を流すことで認知度をあげる
- ☐ ICT等の活用した事例等ちょっとしたアプリなどでいいから情報があると良い
- ☐ ICTやAI情報
- ☐ 運転支援
- ☐ 自助具や既製品の情報
- ☐ 検索しやすいシステム
- ☐ より簡単な情報提供手段
- ☐ YouTubeなどの活用
- ☐ つかいやすさ
- ☐ 生活行為工夫に関するコストの取り方。利用者に負担を求める場合の実費請求なのか手数料もとるのかなど。
- ☐ ICTを用いたりハビリ
- ☐ 周知
- ☐ 欲しい情報が日頃から流れてくるしくみ。
- ☐ ICTなどデジタル面
- ☐ 土会HPに掲載し患者も見れるようにする
- ☐ 高齢者に対する支援方法など

今後必要な支援・情報

カテゴリ	件数	割合	具体例
ICT・AI・デジタル関連	9件	39.1%	AI活用、ICT機器、アプリケーション
情報アクセス・検索性	5件	21.7%	データベース、検索しやすいシステム
情報発信・周知の仕組み	4件	17.4%	定期的な配信、YouTube、SNS活用
具体的な支援内容	3件	13.0%	歩行器選定、運転支援、高齢者支援
その他	2件	8.7%	コスト、使いやすさ

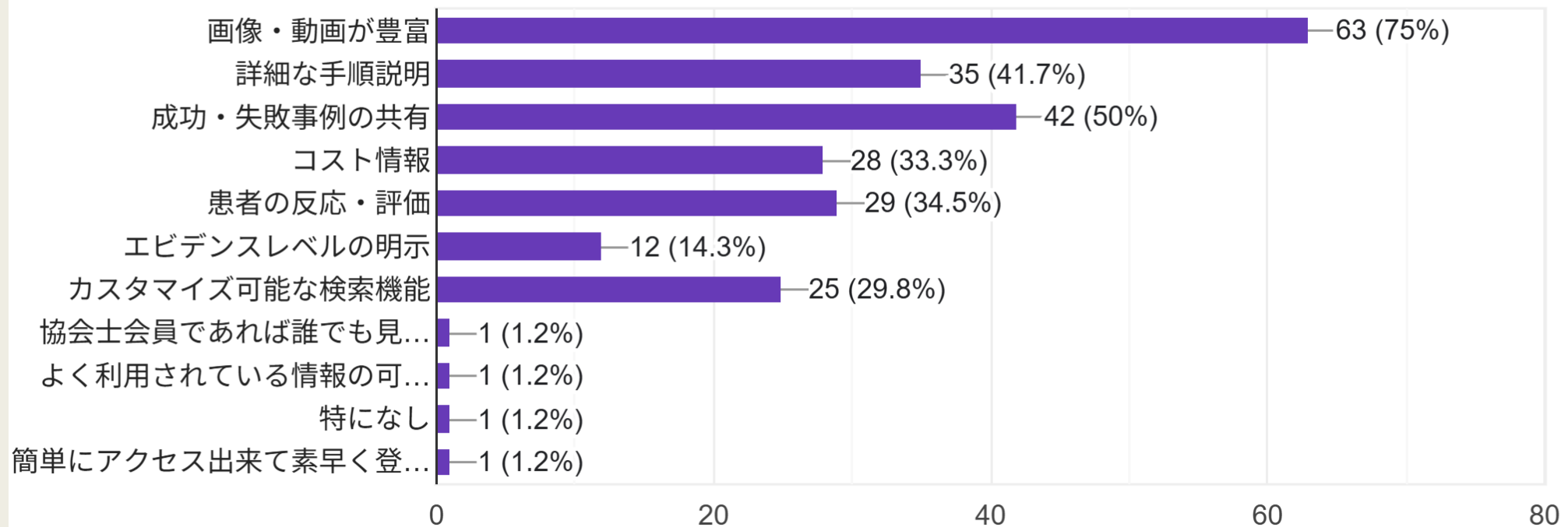
情報提供方法への要望

要望	件数
プッシュ型配信（自動で届く）	2件
動画・YouTube	2件
SNS活用	1件
士会HPでの公開	1件

理想的な生活行為工夫情報データベースとは

理想的な生活行為工夫情報データベースの特徴

84 件の回答



生活行為工夫情報に関するアイディア・提案

生活行為工夫情報に関する追加のアイディア、提案、ご意見等があれば自由にご記入ください。

☐ もっとこの情報にアクセスしやすいようにしてほしい

☐ 道具や環境の工夫について、学術論文の参照を自力で行うことは私にはハードルが高い。可能であれば、知見の共有があると、より助かると思う。

☐ 失敗例もうれしい情報。AIに返答してもらうのも今後はありなのでは。それを参考にケースごとに対応できれば。

☐ 当院で自助具を作ろうとしたところ、上司から安全性が担保できないから個人的に作ることにに対して消極的でした。大きい組織のため作ることにに対して、上司たちに対して許可が必要になるため遠ざかってしまっています。
安全性については他の病院ではどう対応しているのか知りたいです。

☐ 高い機器のレンタル

☐ どんなシステムで運用しているんですか？

☐ 掲示板みたいに他の利用方法など応用的な内容も追加できると相互に良いのではないかと思います。もちろん悪意あるものの削除は必要だと思います。

☐ 生活行為工夫学会のように、実際に展示され、手に触れ、体感できる会の開催

☐ SNSの活用

☐ ITやAIの活用

☐ 動画情報もあっても良いかと思います。

☐ もっと閲覧者からのフィードバックを貰えるようにSNSの活用をより積極的にしてはいかがでしょうか？
また、登録情報を増やすため優秀賞を作る、登録者にはポイントがつくなどのインセンティブを考えてはいかがでしょうか。

☐ 登録しなくても閲覧できる対応

生活行為工夫情報に関するアイデア・提案

改善案

カテゴリ	件数	割合	具体例
アクセス・UI改善	2件	15.4%	アクセスしやすく、登録なしで閲覧
SNS・動画活用	3件	23.1%	SNS活用、ショート動画、YouTube
インタラクショ ン強化	3件	23.1%	掲示板、フィードバック、AIチャット
インセンティブ設計	2件	15.4%	ポイント付与、優秀賞
リアルイベント	1件	7.7%	展示・体感できる会
実務的課題	1件	7.7%	自助具の安全性担保
その他	1件	7.7%	高い機器のレンタル

方向性

方向性	件数	内容
入口のハードルを下げる	3件	アクセス改善、登録不要化
情報発信を増やす	3件	SNS、動画、定期配信
双方向性を高める	3件	掲示板、フィードバック、AI対話
投稿を促進する	2件	インセンティブ、表彰
体験機会を増やす	1件	展示会
その他	1件	安全性、レンタル

生活行為工夫情報事業に関する登録者アンケート調査

3つの課題層

LEVEL 1

個人レベル

時間不足（44%）、知識・スキル不足（30%）

53%

LEVEL 2

システムレベル

情報不足、検索性、UIの問題

29%

LEVEL 3

組織・社会レベル

予算、他職種連携、安全性担保

15%

示唆：課題の半数以上が「自分ごと」として認識 → 改善への当事者意識がある

生活行為工夫情報事業に関する登録者アンケート調査

5つの解決の方向性

1

プッシュ型へ

「探す」から「届く」へ

2

AI・ICT活用

検索・相談・マッチング

3

双方向化

コミュニティとしての進化

4

インセンティブ

投稿・活用の動機づけ

5

オープン化

社会に開かれた事業へ

「知る → 理解する → 活用する → 共有する → 投稿する」

このサイクルを回す仕組みづくりが求められている

生活行為工夫情報事業に関する登録者アンケート調査

困難事例から見た3つの示唆

INSIGHT 1

排泄支援は最重要テーマ

困難感スコア最高値（4.17/5）、事例数も最多。本人の尊厳・介護負担に直結

25%

困難事例の占有率

INSIGHT 2

用具だけでは解決しない

本人の受容、家族の理解、他職種連携が解決を左右する真の要因

67%

部分成功 or 失敗

INSIGHT 3

進行性疾患は早期介入が命

「もっと早ければ」の後悔。将来を見据えた段階的支援計画が必要

17%

神経難病の占有率

生活行為工夫情報事業に関する登録者アンケート調査

活用・共有から見た示唆

OTの工夫は「福祉用具の枠」を超える

100円均一、パイプカバー、クリップ
——生活のあらゆる場面から着想を得る「目」がOTの強み

異分野転用

低コスト

即実践

「周知」と「活用」の深い溝

「紹介したが活用されたか不明」「アクセスが面倒」
——情報を届けることと使ってもらうことは別課題

体験型共有

UI改善

「暗黙知」のまま埋もれている工夫が多い

用具名だけの回答が25%。「なぜ・どうやって」の思考プロセスが共有されていない

25%

言語化不足

KEY MESSAGE : 成功事例はQOL・社会参加レベルの成果を生んでいる

(野鳥観察の再開、家族関係の改善、在宅勤務の継続など)